

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第342回

映画『オズの魔法使い』

ドロシーの名言

発行：入試広報室

発行日：令和5年2月13日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

There's no place like home.

お家と同じような場所はない。

『オズの魔法使い』は、1939年のアメリカ合衆国のファンタジー・ミュージカル映画。監督はヴィクター・フレミング、主演はジュディ・ガーランド。原作はライマン・フランク・ボームが1900年に発表した児童文学小説『オズの魔法使い』。

Column

みなさんにとって『お家』とはどのような場所ですか？今回の言葉はタイトルにもあるように映画『オズの魔法使い』の劇中に主人公であるドロシーが使ったセリフで、調べてみるとこのセリフはオズの魔法使いだけでなく、その他の映画やドラマのシーンでも使われていました。アメリカでは過去に一年に一回テレビで放送されるオズの魔法使いを家族揃って見ることが定番行事だったこともあり、他の映画やドラマなどでもよく使われるということだそうです。

大人になって自分の家建てる（買う）ということで、よく聞く“夢のマイホームを手に入れた！”という達成感や“自分のお城”という感覚はあるかもしれませんが、今回の言葉に出会って自分が住んでいる建物という意味以上にじっくりと考えたことがありませんでした。なんとなくイメージする『お家』に対する気持ちについて、もしかしたらみなさんもそうかもしれませんが今回のドロシーのように恋しいと思えるような“心安らぐ場所”というものが大半かと思っておりましたが、他の映画やドラマでこのセリフが使われている時の状況はピンチの時などに使われていたこともあって意外でした。

私は今回の『お家（うち）』という言葉から、日常の会話の中でよく使う『うちの場合は…』という言い回しを思い出しました。これは“帰属意識”から生まれると私は思っています。帰属意識とは、組織に所属しているメンバーが持つ“組織の一員”“組織に所属する仲間”という意識のことを指します。また、スポーツの世界では“ホームゲーム”というものがあり、やり慣れた本拠地で有利に戦えるメリットがあります。そういう意味ではお家というものは自分がパワーを充電できる場所ということであり、帰属意識を持つ場所がお家と同じような存在になれば自分にとっての“ホーム”が増えるということになります。ホームが増えれば“いつでもパワーを発揮できる！”というやる気満々な自分でいられるということですから、そんな自分を想像するだけでもワクワクしますよね！お家というかけがえのない存在に感謝しながら、正智深谷高校を『うちの学校！』と心から思えるような環境を自ら作ることで成長していきたいものですね！